2025年、「観光先進国」へ飛躍の年に

観光関連団体トップ　新年あいさつ

全国旅行業協会会長　二階俊博

「回復」から次のステップへ

明けましておめでとうございます。新しい年を迎えるにあたり、ごあいさつを申し上げます。

旧年は、わが国の観光立国の実現に向けて大きな一歩を踏み出すことができた年となりました。日本を訪れる外国人観光客数は、コロナ前の2019年の水準を上回るとともに、国内観光も個人旅行を中心に活況を取り戻し始めました。他方で、日本人による海外旅行需要は依然として低迷しており、バランスのとれた国際交流が行えているとはいえない状況が続き、団体旅行もコロナ前の水準までの回復には至っておりません。また、サービス提供機関における人手不足やオーバーツーリズムなど、かねてより言及されていた課題が顕著となった年でもありました。

新たに迎える2025年は、コロナからの回復を実現した観光業界が次のステップへ進むための1年にしなければなりません。観光業は、国の基幹産業であり、地方創生の達成への貢献」「Society5.0の実現」に向けて、世界の英知を結集した世界的にも注目度の高い国際イベントであり、国内外から数多くの旅行者が訪れます。観光業界に携わる皆さま一人一人が観光大使となったつもりで、日本や関西の素晴らしさをアピールし、観光業界が飛躍するための起爆剤にしていただければと存じます。

当協会としても、持続可能な観光地域づくり、多様化する旅行ニーズへの対応、利益率の高い高付加価値商品の造成促進などの取り組みを通して、会員が存分に力を発揮できる環境を構築し、地域振興に貢献してまいります。

本年1月28日には東京都で「第19回国内観光活性化フォーラムin東京」を開催いたします。本フォーラムは、当協会47支部組織、全国のANTA会員並びに観光関係の皆さまが一堂に会し、「ようこそまだ見ぬ東京へ」のスローガンのもと、開催地である東京都への送客を促進するとともに、国内旅行および地域観光のさらなる需要拡大を図ることを目的とした大会となります。本フォーラムが旅行業界の活性化を導く、実り大きな成果が上げられるよう、全力を尽くしてまいります。

さらに、日本人による海外旅行やインバウンドの国際往来につきましても、近隣諸国を中心に、より活発な交流が行われるよう取り組んでまいります。私はかねがね「観光は平和産業」と申し述べておりますが、国際交流が盛んになることで、お互いの国への理解が深まり、国民同士の絆が結ばれ、新たな観光需要が生み出されることとなります。観光での交流で得た絆は、不安定な社会情勢にも左右されず、旅行業界がこれらを取り組むにあたり、全てコンプライアンスが基盤にあることを改めて肝に銘じ、本年もコンプライアンス関連の研修を深度化し、会員会社と共に意識と行動の改革に真摯な取り組みを継続してまいります。

本年も皆さまのご指導・ご鞭撻（べんたつ）を何卒よろしくお願い申し上げます。

日本旅行業協会会長　髙橋広行

持続可能なツーリズムの発展を目指して

2025年の年頭にあたり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年は、世界的に旅行需要が拡大しマーケットが大きく動いた年となりました。日本においても、訪日インバウンドは円安が追い風となり10月時点で3千万人を上回るなど過去最も早いペースで伸びを示し、国内旅行もほぼ2019年と同レベルまで回復してきました。しかしながら、海外旅行については円安、旅行代金の高騰等の影響により回復のペースは遅く、いまだ2019年比で6割強程度にとどまっており、各国から早期回復を期待する声が強く寄せられています。旅行業界として今年こそは海外旅行の完全復活に向けた取り組みを加速させなければなりません。併せて、バランスのとれた双方向交流の実現と国際交流活性化のためにも、特に若年層が積極的に海外へ出て視野を広げていただけるよう取り組みを進めます。

今年は旅行マーケット拡大の大きな機会となるイベントが二つあります。

一つは、いよいよ4月に開幕が迫る「大阪・関西万博」です。海外約160カ国・地域から出展され各国の魅力をPRしていただくことで、日本人の海外旅行機運を高める絶好の機会であると考えています。同時に万博を機に多くの訪日客が見込まれるため、「万博＋観光」による地域への分散、高付加価値旅行の提案といった新たな展開を促進する機会でもあります。国内旅行も団体・個人ともに大きな需要の創出が予想され、旅行業界としても多くのお客さまを誘致し、万博の成功と地域経済の活性化に貢献してまいります。

もう一つは愛知県で初の開催となる「ツーリズムEXPOジャパン2025愛知・中部北陸」です。この地で開催する意義としては、万博との相乗効果による国内・海外・訪日旅行の活性化、中部国際空港のイン・アウト双方の拡大、そして、観光による継続的な能登半島復興支援を訴求することであります。国内外へ日本の魅力を最大限発信いたします。

また、観光業界の課題解決に向けて、持続可能な観光への積極的な取り組みも重要です。急激な訪日インバウンドの回復に伴い、一部の地域ではオーバーツーリズムが課題となっています。解決に向けてゴールデンルートへの一極集中から、地域・時期の分散を実現する必要があります。そのためには、地域観光資源の掘り起こしや磨き上げ、高付加価値旅行の提供、観光型MaaSなどの仕組みの構築やDXなどに官民が連携し取り組まなければなりません。また、国内旅行における旅行需要の平準化と総需要拡大は、オーバーツーリズムの解決や地域活性化にとって重要なテーマです。既に多くの自治体で導入されている「ラーケーション」「休み方改革」はこれらの推進につながると考えています。旅行業界としても地域や観光事業者と一体となって取り組みを進めてまいります。

日本旅館協会会長　桑野和泉

「今年こそ」

新年明けましておめでとうございます。

1年のはじまりの日には、いつも新たな気持ちで「今年は去年よりももっといい年にしよう」と決意し、明るい1年間を想像して思いをはせています。昨年、そんな決意をした直後に起きたのが、能登半島地震でした。自然災害は、お正月でもお盆でも関係なくやってきます。「天災は忘れたころにやってくる」のではなく、今はいつどこでもやってくる時代です。お盆シーズン直前に起こった宮崎県日向灘での地震と、その後発表された「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」もそのうちの一つです。昨年6月に会長に就任してから、災害への対応に頭を悩ませた半年間でした。災害に強い業界にするためには、地域の中での業種を超えた横のつながりに加えて、行政、官公庁との縦のつながりを強固なものにしていく必要があります。

その取り組みの一環として、昨年9月には私の地元である大分県・由布院にて「宿泊業界における観光と金融に関する全国懇談会」を開催いたしました。共催として九州運輸局、九州観光機構のご協力を得て、観光庁長官、中小企業庁長官、金融庁監督局長、九州の多くの金融機関の皆さまにご参加いただくことができました。さらに基調講演では、菅義偉元総理大臣からのビデオメッセージをいただき、「2030年までにインバウンド6千万人、消費額15兆円の達成に向けて官民一体となったさらなる取り組みが必要である」と力説いただきました。また、漫画家・文筆家・画家として活躍されておられるヤマザキマリ様にも基調講演、パネルディスカッションにご登壇いただき、温泉文化の素晴らしさについて講演していただきました。平時のときからさまざまな関係機関と関わりを持つことを重要視しながら、本年も事業に取り組んでまいります。

また今年4月には、待ちに待った「大阪・関西万博」が開催されます。いよいよコロナ前の2019年を大きく上回る数のインバウンドが日本にやってくることは間違いありません。多くの方に私たちの国の文化を知ってもらうチャンスであるのと同時に、オーバーツーリズムの問題もさらに大きなものになると思います。観光地において、歴史的建造物を大切に扱ってもらえないという事例も出ておりました。観光に携わる者として、その地域の歴史をより深く、正しく伝えていかなければならないと強く感じています。

これはインバウンドに限ったことではなく、私たち宿泊事業者は「訪れるすべての人に地域の素晴らしさを伝える」という責務を担っているのだと思います。インバウンドが戻り切っていない地方にお客さまにいらしていただけるチャンスでもあります。各地域が交通に課題を抱えている現状にあることも承知しておりますが、ここは地域と一体となって、具体的な動きにしていく必要があると考えています。

災害に正しく備えること。そして宿泊業界が地方創生の担い手となれるように、地域とともに取り組んでいくことが最も重要です。「リョカン＝RYOKAN」が世界共通語になる日に向けて、さまざまな活動を続けてまいります。

全日本ホテル連盟会長　清水嗣能

業界のイメージアップと人材確保を

新年あけましておめでとうございます。

世界的な気候変動に伴う豪雨や地震など、度重なる災害への対応については、業界の努力だけではいかんともしがたい問題が多い中、能登半島地域では度重なる地震や豪雨災害に遭いながらも、復旧、復興に向けて歩み続けている姿勢には頭が下がる思いです。全日本ホテル連盟では、令和6年能登半島地震による2次避難者受け入れのために客室提供を会員に呼び掛けるとともに、各会員ホテルのフロントに募金箱を設置して、お客さまのご厚志による義援金を日本赤十字社を通じて被災各県に寄付させていただきました。

また、コロナ禍を経て宿泊業界のみならず全産業で未曽有の人手不足の時代を迎えています。その問題解決に向けてDXによる省人化や外国人材の採用も進んでいる一方、宿泊業界が抱える宿命として週末や連休、お盆休み、正月等が忙しく、朝早く、夜遅いなどのシフト勤務があることなど、一般的な会社と比べると募集していく上で選ばれにくいような事情が存在します。

当連盟では、このような状況を改善するため、ホテル産業フォーラムを開催し、ホテル業界の魅力と働きがいの向上に取り組んでおります。その中で私は、われわれホテル従業員の本当の仕事は何かと問うた場合、「人は良い思い出が多ければ多いほど幸せであり、その良い思い出づくりのお手伝いをすること、すなわち人を幸せにすることが私たちの本当の仕事である」と伝えています。

これから業界を挙げて取り組むべきことは、業界のイメージアップと人材確保です。そのためにホテル業はお客さまに喜びを与えられるやりがいを感じる職業であることを分かりやすく伝え続けることであり、他業種と比べてもより良い雇用条件を提示できるようにしていくことがホテル経営者としてのミッションであると考えます。新年を迎えるに当たり、改めてこれらの問題に取り組んでまいります。

国際観光日本レストラン協会会長　鍔一郎

レストランの果たす役割を発信

新年あけましておめでとうございます。今年も国際観光日本レストラン協会をよろしくお願いいたします。

レストランの語源はフランス語の「restauer」であるといわれています。その意味するところは、

・〜を復元する、修復する
・〜を復活させる、立て直す
・（体の）機能を正常に戻す
・〜に食物を振る舞う、ごちそうする
・〜の体力を回復させる

などですが、18世紀になってスープや煮込み料理を提供する店が出没し、「回復させる場所」から「食事を提供する店」＝「restaurant」に変遷していきました。当時のフランスはギルド（職業別組合）の力が強く、「restaurant」の名称を名乗るにあたって裁判沙汰にもなったそうです。詳しく調べると歴史や地政学も絡んできて面白いのですが、紙面の都合上割愛させていただきます。

このようにわれわれの使命は、語源が指し示すようにお客さまの味覚、嗅覚、聴覚などの五感を満足させ、それ以上の安心感や希望を与えることと日々心に念じております。

さて、日本は先の選挙で少数与党の政治体制になり、アメリカはトランプが大統領になり、相変わらず中欧と中東では戦火が絶えません。近隣諸国の動向も目が離せません。為替の影響もあって訪日外国人が遂に3千万人を超え、経済効果orオーバーツーリズム&人手不足?という複雑な方程式が難問として目前にあります。

今一度視野を世界に向けると同時に足元を見つめ直し、当協会の活動を通じて本来の「レストラン」の果たす役割を日本にそして世界に発信する2025年にしたいと考える次第でございます。

RAKO 華乃井ホテル

上諏訪

浜の湯

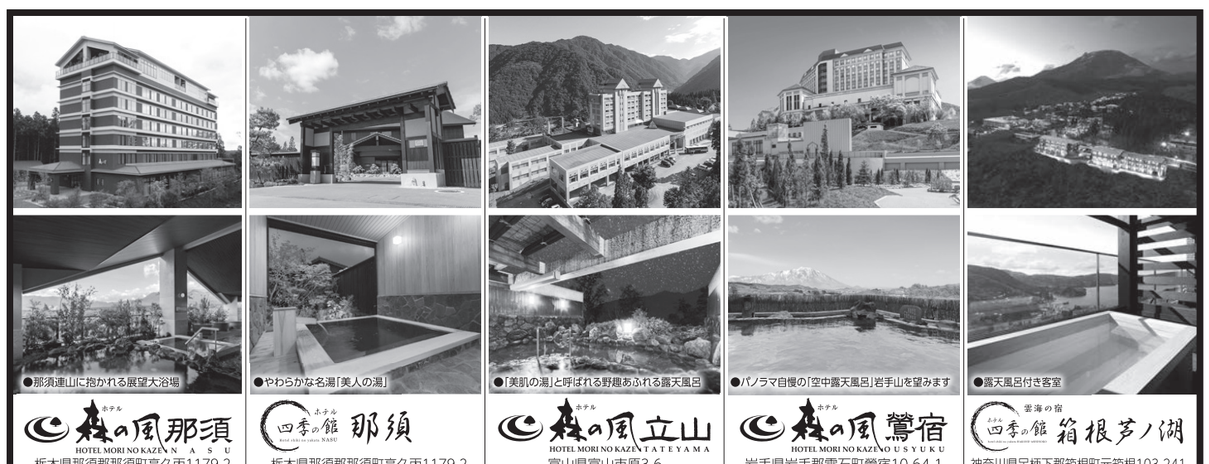
下諏訪

聴泉閣 かめや

門前ひろば 食祭館

諏訪湖リゾート株式会社

上諏訪温泉　RAKO 華乃井ホテル　浜の湯
下諏訪　聴泉閣 かめや　門前ひろば 食祭館
総合予約センター　☎0266-54-0333
〒392-0022　長野県諏訪市高島2-1200-3
http://www.suwako-resort.co.jp/


●那須連山に抱かれる展望大浴場
●やわらかな名湯「美人の湯」
●「美肌の湯」と呼ばれる野趣あふれる露天風呂
●パノラマ自慢の「空中露天風呂」岩手山を望みます
●露天風呂付き客室

森の風 那須　HOTEL MORI NO KAZE NASU
栃木県那須郡那須町高久丙1179-2
上品で洗練された大正建築風ホテル。和と洋が溶け合う心地よさにつつまれ、大自然の恵みと心づくしを五感で味わうときをお過ごしください。

四季の館 那須
栃木県那須郡那須町高久丙1179-2
大切な人と過ごすかけがえのない季節。武家屋敷風の粋な歩廊を抜けると、和の風情に満ちた空間が広がり、雅な大人の時間を紡いでいきます。

森の風 立山　HOTEL MORI NO KAZE TATEYAMA
富山県富山市原3-6
トロリとした肌ざわりの温泉に癒やされながら、富山湾の恵みをいただく贅沢体験。立山黒部アルペンルートの拠点にも相応しい本格温泉ホテルです。

森の風 鶯宿　HOTEL MORI NO KAZE UGUISUKU
岩手県岩手郡雫石町鶯宿10-64-1
盛岡の奥座敷として知られる開湯400年の名湯、鶯宿温泉で旅の疲れを癒やし、四季折々の風情や多彩なイベントで充実のホテルライフをお楽しみください。

箱根芦ノ湖　HOTEL MORI NO KAZE HAKONE ASHINOKO
神奈川県足柄下郡箱根町元箱根103-241
木の温もりと日本古来の色調でまとめた、安らぎと落ち着きをもたらす和の空間。全てのお部屋に「美人の湯」と称される客室露天風呂をご用意しました。

株式会社 日本ハウス・ホテル＆リゾート　〒102-0072　東京都千代田区飯田橋4丁目3-8　日本ハウスHDビル2階